

おしゃべりコンサート in 台湾

歌手 千葉 章代

交流協会では、日台交流に有意義な催しに後援助成・名義を付与する形で協力しています。今回は、「おしゃべりコンサート」として、老人ホーム等の日本語世代の方や日本語を学ぶ若い世代に美しい歌詞とメロディーを持つ日本の童謡や唱歌を届ける活動をなさっている千葉章代さんの活動をご紹介します。

2008年6月、私は初めて台湾を訪れました。空港から台北市に向かう車窓はどこかで見たように懐かしく温かく、ぼんやり眺めていました。明るい太陽と湿度を感じる空気は、私の様々な思いに拍車をかけていました。

荷物を兄弟飯店に預け、再びタクシーに乗り込みメモした住所を手渡すと、一気に緊張が込み上げてきました。この時の車窓は目に入らず、意味のわからない汗が吹き出していました。孫君儀先生を尋ねていくことが、私が台湾で行う最初の一歩でした。

タクシーが止まると、幼稚園の前を掃いていた女性が見えました。ある五感が働き、すぐさま「孫先生だ！」と勝手に思い込んだ私は、日本語で話しかけてしまいました。

孫先生は日本語が上手で親切に迎えてくださいました。園長先生へのコンサートのお願いは、孫先生の通訳のお陰で無事頂くことが出来ました。お願いごとに伺った私のために、それも初対面にも関わらず会食を準備して先生方が歓迎してくださいました。興奮してしまいました。

和やかな時間を過ごし、そろそろお開きになりかけた頃に、衝撃的な言葉を耳にしました。

「私たち台湾の人たちは日本人が好きなのに、日本の人は台湾人に、ちょっと冷たいと感じたことがあったよ…」

……一瞬、何故か返す言葉が直ぐに見つからない私がそこに居ました。

幼い頃に父が病死、母方の実家と深い縁を持って私は育ちました。祖父は明治製糖に仕え（後に7社に分かれ、祖父は明治機械の重役だった）、台湾への出張が有りました。私が6才頃だったと思います。祖父の会社の方々と羽田空港に見送りに行った時に「おじいさま、どこへ行かれるの?」「台湾という国だよ、台湾と日本は仲良く!」祖父の言葉の意味は分からず、羽田空港から大きな飛行機を見送りました。

衝撃的な幼稚園の先生の言葉に祖父の言葉が重なり、「台湾の皆さまと、音楽を通して仲良くして



澤田勝行先生

いきたい！」という気持ちを持って3日間の台湾滞在を終え帰国しました。

その後、台湾でのコンサートのために、伴奏、演奏をしてくださるピアニストを探しました。音楽を愛し、技術を備えて、どんな場合にも穏やかに適応して下さって…、何よりも私のこの思いを共にしてくださるピアニストは？条件ばかり多くて簡単には見つからずにいました。

その頃、東京でのリサイタルの伴奏、受験生のことで交流があった、澤田勝行先生に、お弟子さんを紹介して頂こうかとお相談したところ…、

「私が伺いましょうか！」「えっ！澤田先生が？」音楽大学のピアノ科教授に、休講の調整をして台湾に来て頂くことは…、ピアノが必ず有るとは限らない会場で、時にはキーボードで童謡伴奏もして頂くことも、演奏謝礼の条件だって無いに等しくて（現在も同じですが）…。

「でも、澤田先生が来てくださればコンサートはきっと成功する！」

常に誠実に音楽と向かい合われて、研ぎ澄まされた美しい響きのピアノを台湾の皆さまにも是非とも聴いて頂きたい！！

「私も台湾には関心が有ります。童謡の伴奏、何でも弾きますよ」と、おっしゃってくださったことは、思いを支えてくださる神様の言葉のように思えました。

澤田先生のピアノは美しく、台湾のファンもコンサートの回数を重ねる度に増えてきます。歌の伴奏を楽譜通りに弾かれるだけではなく、皆さんと一緒に歌いやすくするためのアレンジもして下さいます。コンサートのためにオリジナルも作曲して下さって、どなたにも楽しく聴いて頂ける楽曲がプログラムに並ぶようになりました。

2008年10月のコンサートは、台北第一女子高校（授業のみ）、民権国民小学校、幼苗幼稚園、喬

幼稚園、淡水仁濟安老所、三芝吉得保幼稚園、そして民権小学校のご協力でYAMAHA 攻学社（復興）でも行いました。

三芝吉得幼稚園で通訳して下さった音楽の戴志承先生は、親切で爽やかなお人柄でした。ちょうど結婚のパートナーを探している知人がいたので、「日本語もお上手で、こんなに優しい方ならば良いかな？」と、ふと思ったのですが… 後から、戴先生には既にご家庭を持っておられると知り、私のおっちょこちょいが先に走らなくて良かったと思いました。

戴先生は、多くの幼稚園で音楽の指導をされていました。日本の童謡、アニメの歌など取り入れて、合奏アレンジも全員が心を合わせて演奏する工夫をされて指導をされてきました。

幼稚園の孫君儀先生、台湾で会った初めての日本人武田美紀子さん、そして音楽の戴先生との出会いは“おしゃべりコンサート in 台湾”実行委員として加わって頂けることになっていきます。

ふとしたご縁で、お仕事の合間に通訳としてお世話して下さった李信哲さん、とても残念なことですがご病気で亡くなられてしまいました。

翌年2009年は、順調にコンサートが続いた訳ではなく、悶々とした年となりました。台湾でのコンサートを諦めたのではなく、自分なりに考え行動するのですが、何故か越えられない壁が立ち塞がるのです。

2010年の春、ウィーンでコンサートツアー中に、私は台湾のことばかり考えていました。台湾で初めてお会いした日本人武田美紀さんは、その当時は民権国民小学校のPTAの方でした。メールアドレスをウィーンで何とか探し出し、携帯電話でドキドキしながら長々とメールを書きました。

武田さんからのお返事は、あっさりと短く「千

葉先生が台湾にいらっしゃりたいと思うならば、いらっしゃれば良いのです…」

恐る恐る開いたメールでしたが、目の前が急に明るくなって嬉しさが込み上げ、何度も短いこの文を読み返していました。

この年の秋は、武田さんがコンサート会場を準備してくださいました。ご紹介くださったYAMAHAの塩谷いづみ先生とのご縁で、YAMAHA-ASCでのコンサート、澤田先生のピアノ公開レッスンと活動が広がりました。その後は、師範大学音楽学科の陳先生とのご縁を塩谷先生が繋げてくださって、師範大学でのコンサート、澤田先生の公開授業やピアノレッスンが続いています。また、これらの通訳は音大出身の虞恵子さんがしてくださっています。澤田先生の音楽への思いが学生さんによりわかり易く伝わっていると思います。

台湾で初めて出会った孫先生、音楽の戴先生も



国立台湾師範大学

快く一緒に協力してくださって、台湾のコンサートは再びスタートしました。孫先生から大学入試センターの蕭教授をご紹介頂きました。歌のお上手な蕭教授から、台北市内の高校でコンサートが出来るようにして頂きました。思春期の高校生との交流は、若い方たちの受験、将来の思いを知ることが出来ました。

武田さんが副運営委員長をされていた台北日本語授業校は、台湾の教育を受ける主として国際結婚家庭の子供達に、母国語としての日本語を維持するため週一回集う日本語補習校で、このコンサートで日本語も中国語も流暢な子どもたちに出会いました。年に一度ですが成長と再会を楽しみに訪れています。授業校はご父兄の涙ぐましい運営で支えられていることに心が惹かれました。

授業校の校歌は、塩谷いづみ先生が作詞、作曲なさいました。軽快なリズムに元気になる歌詞がついて、感情豊かな優しい塩谷先生らしい校歌です。練習のために私が歌って録音したことで、更に授業校へ私の思いを寄せてしまいました。

この時に授業校の来賓として来てくださった大成権真弓さんは「おしゃべりコンサート in 台湾」を立ち上げることに、大きなお力を与えてくださることになります。大成権さんは「居留問題を考



台北日本語授業校

える会」という、在台外国人、特に日台間の国際結婚家庭の日本人の居留環境改善のために活動するボランティアグループの会長をされています。大成権さんとの出会いにより、その後の台湾での活動は、同会と各地の邦人ネットワークによるご支援、ご協力を頂いています。

武田さんから「日本語世代の方々が、日本語で活動している玉蘭荘を訪問してコンサートされませんか？日本の歌をたくさん歌ってください」と、連絡が有りました。日本語が普通に飛び交うところでしたので、通訳無しに和やかに思い出話を伺い、温かく迎え入れてくださったので、私はここが台湾であることを思わず忘れていました。今井総幹事から「この世代の方々は、日本を恨んだこともきっとあったと思うけれど、やっぱり日本が大好きなのよね…」の言葉を聞いた事が日本語世代の方々の過ごされた時間、思いを理解するきっかけになりました。後に、澤田先生もあの日のことが印象に残っているとおっしゃっていました。

玉蘭荘の常務理事をされている内片貴子さん、キラキラ輝く瞳の奥には、正義と優しさが溢れています。相手のことをこんなにも真剣に考え思い、一生懸命行動されている内片さんから学ばせて頂くことが多く有ります。



玉蘭荘

内片さんのご紹介による台中の恵明盲学校でのコンサートは、台湾と日本ということを超えて、人として忘れてならないことを感じました。音楽を身体で表現して歓迎してくれた皆さんを生涯忘れることは無いでしょう。“おしゃべりコンサート in 台湾”の活動期間中、内片さんは実行委員として、いいえそれ以上の細やかさでサポートしてくださいます。内片さんの笑顔はコンサートのアクセントになって、私は安心して歌うことが出来ます。

2011年に台北日本語授業校にご来場くださった大成権さんや居留問題を考える会の役員及び会員のご協力を得て、新竹、台中、桃園と、そして翌年には高雄へと更にコンサートを広めていただきました。大成権さんのお友達、同会役員でもある社区大学で日本語を教えていらっしゃる砂川麗子先生には、日本時代から存在する太平洋小学校内でコンサートを企画して頂きました。暑い日だったけれど、ご来場くださった方々が熱く歓迎してくださったことの方が外の暑さより勝っていたと思います。松年大学双連分校のコンサートも、砂川先生の楽しい通訳で皆さまの温かい思いを感じながら、日本の歌と一緒に歌っています。砂川先生は学生さんからの信頼も厚く、台湾のことは何でもご存知で優しく対応して下さいます。“おしゃべりコンサート in 台湾”の実行委員になってくださり、老人ホームのコンサートなどのご紹介もして頂いています。

「台湾歌壇&友愛会」のコンサートでは、日本の童謡、唱歌がこんなにも素晴らしかったかと、台湾の方々の歌声から改めて感じました。私が歌わなくても良いほど、皆さんの声が大合唱になります。

「どうして、皆さまはこんなに歌われることが出来るのですか？」



松年大学双連分校

「幼い頃、日本の童謡、唱歌で日本語を覚えました」

言葉、意味を大事に思っただけの本気の力強い歌声は、歌手の立場を忘れて毎回感動します。

ご高齢で車椅子、しかも高雄から台北まで高鉄（新幹線）でご来場くださるご婦人を思うと、私はより気合を入れて歌います。

友愛会は、昨年（2015年）の秋に旭日双光章を受章された張文芳さんが代表をされています。張さんが会の主旨「美しく正しい日本語使うために

学びます」とおっしゃった時には、とても耳が痛かった…日本語がお上手なのは、熱心に日々学ばれ日本語を大事にしていられることに敬服しています。

2012年“おしゃべりコンサートin台湾”として、そして思いを一緒にしてくださる方々と実行委員会が発足したことは、私にとって感動の年になりました。大成権真弓様、武田美紀子様、塩谷いづみ先生、砂川麗子先生、内片貴子様、戴志承先生、孫君儀先生、虞恵子様（順不同）、台湾で活躍され必要とされている方々が、このコンサートを見守ってサポートしてくださることになりました。ここに澤田先生のピアノ演奏が加わってコンサートが出来るなんて！勿体無くて夢のような環境に恵まれたことに、「感謝」以外の言葉が見つかりません。

この実行委員会が発足以降、公益財団法人日本交流協会、台湾日本人会からのご支援を頂戴し、温かく見守って頂いていることは非常に心強く、もっと笑顔が増えるコンサートを企画していきたいと思います。



台湾歌壇&友愛会コンサートにて



おしゃべりコンサート in 台湾実行委員会

次の年、2013年は、武田さんからのご縁で、台北市介壽國中弦楽団が校長先生、先生方、PTAの方々を含め約150人の皆さま、昨年(2015年)は介壽國中卒業生で編成されている薪傳校友管楽団が、何と私が住む東京都東大和市を訪れてくれました。

弦楽団の時は東大和市、東大和市教育委員会、ロータリークラブ、市民の協力で市内ハミングホールで一緒にコンサートをしました。地元のケーブルテレビでも取り上げられて、初めてのことでオロオロでしたが私のまわりの方々に「台湾」を知って頂く良い機会になりました。

昨年2015年に訪日の管楽団には、通訳として音楽の戴先生と一緒に同行してくれました。都立東大和高校吹奏楽部が快く協力、市内全中学校、



薪傳介壽校友管楽団&都立東大和高校吹奏楽部の交流音楽会

市内全都立高校の各吹奏楽部が参加してのコンサートは、東大和市に住む私たちに、そして中学、高校生にも「台湾」への親しみが増し、「もっとしゃべれるようになって自由に話してみたい」の声を頻繁に聞くようになりました。

「台湾の方々と音楽を通して仲良くなりたい」との思いは、出会った方々のお気持ちと心に支えて頂いています。これまでの訪問先は延べ125箇所、参加人数は延べ13,130人となりました。“おしゃべりコンサート in 台湾”は、目に見えない大事なことが未来に繋がっていくことを信じ願って、これからも続けさせて頂ければ嬉しく光栄です。どうぞ宜しくお願い致します。